
ハイスクールD×D～恥痴龍帝 見参～

天笑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハイスクールD×D〜恥痴龍帝 見参〜

【Nコード】

N0115Y

【作者名】

天笑

【あらすじ】

兵藤一誠に憑依？転生？をしてしまった俺。
ちよいとばかし神……という名の変態から特典も貰った。
しょうがない。
頑張って生きていきますか〜。

この作品はエロ5・ギャグ2・バトル2・シリアス？1の割合で提供します。

そして主人公最強、ハーレム、主人公無双、変態仮面は無敵、等々色々なカオスが含まれていますのでそれらが嫌な方は読まない方が
良いです。

神……だと？（前書き）

作者は勢いだけで書いてます。

ご都合主義やら適当な箇所がありますが、生暖かい目で見守って下されば嬉しいです。

それでは始まります。

クロスアウツ！

神……だと？

「気がついたか？若人よ？」

目の前の人物？はそう言ってきた。

だが！！

俺はまた目を閉じた。

（うん。悪い夢だ。

うん。俺は何も見なかった。

うん。目が覚めればきっと輝かしい朝陽が俺の視界を照らしてくれる。

うん。間違いない。

うん。

俺の

視界に

ブリーフ二丁で

女性の下着を

被った

変態仮面なんて見なかったんだ!!!)

「残念ながら現実だ。若人よ。さあ股間(私)を見ろ!!! (クイツ、クイツ)」

凄まじい悪寒を感じた俺は即座に意識を浮上させ、某エクソシストに出てくる奴もビックリな動きで後退した。

後退した時に「ウホッ!? イイ動き」なんて言葉は俺の耳には入ってきてない!

「(クイツ、クイツ)」

「……………(ゴクリ。)」

俺は態勢を整えた後、奴と対峙する。

股間を突き出し腰を揺らす奴。

奴の顔面には女性の白の下着（リボン付き）がジャストフィットイング。

あえて言おう。

……

……

……すごく……変態です。

対峙して2時間経った。

変態仮面が現在の状況を教えてくれた。（腰を揺らしながら）

奴は神様らしい。

そして俺は死んだらしい。

まあ死んだ時の記憶がフラッシュバックしてきたから俺は死んだのだろう。

だが！

それより！！

何よりも！！！！

変態仮面が神様だということを！！！！！！

認めたくなかった！！！！！！

俺は認めたくなかった！！！！！！

大事な事なので2回言った。

話が進まないの、それは置いておこう。

まあ死んだ俺が何故変態仮面と対峙しているかというところ

「転生……だと？」

「うむ。そうだ。（クイツ、クイ）」

「死んだら普通に転生するんじゃないか？違うのか？（ウプツ。気持ち悪い〜）」

「ああ、それはだな……カクカクシカジカ……だ。（ハアハア、あの蔑んだ視線と怯えたような視線が混ざった感じ……タ・マ・ラ・ナ・イ）」

変態仮面の言う事を纏めると

変態仮面が仕事中にミスをした。（ミスの内容は聞いたら嫌な予感がしたのでスルーしたぜ）

そのせいで俺死んだ。

お詫びに特殊な転生をプレゼントフォーユー

現在に至る

らしい。

まあテンプレ……なら女神とか出てきて欲しかった……がそこは諦めよう。

「どんな世界に転生出来るんだ？」

「ふむ。私の管理する世界で「ハイスクールD×D」という世界だね。(クイツ、クイツ)」

「……………まあいいや。色々聞きたいけど、聞く気が失せる。」

ハイスクールD×Dね……………一歩間違えたら死亡フラグ一直線だな。

「で？特殊な転生つてのは？」

「何か力をプレゼンツしよう。」

「力……………ねえ。あんま思いつかんなあ。」

「そうかね？ふむ……………なら、キミが生前夢中になってプレイしていたゲームの力を幾つか上げよう。勿論、選んでくれて結構。それから全ての才能で限界突破付き。生前の経験、知識付き。他は……………」

変態仮面が次々と付けていく。

長々と付けていってる所を俺はストップさせた。余計な力を貰ったら死亡フラグ一直線だからな。そして纏めると

・俺が選んだあのゲームの力を4個ぐらい。

・全才能限界突破

「まさかの逆バンジィイイーーーー……………(キラん」

こうして俺は転生した。

……………

……………

ハイスクールD×Dの主人公、兵藤一誠に。

……………どうしてこうなったorz

神……だと？（後書き）

目指せ

頂点！

変態のな！

主人公設定……かな（前書き）

相も変わらず適切な設定でごめんなさい

主人公設定……かな

兵藤一誠（転生ver）

変態仮面により転生？させられ兵藤一誠となった。

転生する時に変態仮面と遭遇してしまったので女体が恋しくなり若干？変態化した。

おっぱい超大好き。

おっぱい以外も大好き。

やる時はやってくれる男の子（色々な意味で）。

能力

1）スパロボOGsのアルトアイゼン・ヴァイスリッター・アンジユルグ・ソウルゲインの機体に換装できる能力

2）変態的な肉体能力と魔力

3）生前の知識や経験（原作知識含む）

4）全才能限界突破

5）?????化

6）赤龍帝の籠手

1の機体換装能力については神滅具並みの力。

赤龍帝の籠手との併用で強化可能。物語が進むにつれ新たな能力を載せていきます。

全て神（変態仮面）により魔改造化。
ただ機体色は全て赤。

2の肉体・魔力は変態仮面基準で付けてしまったのでかなり強し。

補足？

主人公の元いた世界はハイスクールD×Dの世界より上位の世界に位置している為、その上位世界である神（変態仮面）から付与された機体能力・変態的肉体能力・魔力等は特別なので悪魔の駒に影響しないし、この世界の者達に関知もされない。ただ自分の相棒となるドライグには後々機体換装能力に関して説明しようと主人公は思っている。

主人公設定……かな（後書き）

機体に関しては作者の好み。

アンジュルグ ヴァイサーガとソウルゲインに関してはおかしいだろ！というのは勘弁してください。
っっていうか色々勘弁してくだされば嬉しいです。

さて次は

キング・クリムゾンしていくぞ！

てへ

さあ、ぬこを擬てようではないか（前書き）

久々のD×D投稿。

待っていた方がいるかはわかりませんが、お待たせしました。

後、この作品のタイトルは現在（仮）です。

表記するのを忘れてました。

すいません。

しばらくはこれでいきますけどね。

とりあえず……早速原作ブレイクしてみよう。

どしどし

さあ、ぬこを愛でようではないか

皆さんこんにちは。

兵藤一誠に転生してはや12年。

俺は現在小学6年生。

今日も未来に向けて頑張って体を鍛えています。
ただね

『相棒。今日は修行をしないのか?』

『あゝ……今日は体を休める日にしとく。そこそこ強くなっただろうし。』

今の会話は頭の中?かな。

そんな感じで話してるんだけど……。

まあともかく原作同様に《赤龍帝の籠手》も付いてきてましたよ。

5歳ぐらいから体を少しずつ鍛え始め、8歳ぐらいの時に赤いドラゴンが何か夢に出てきたから、もしかしてと思い起きた時に心の中で『おゝい』と呼び掛けたら………反応したんだよね、ドライグが。ドライグの方も何か驚いてたが。

驚いた後に我に返ったドライグは何か偉そうな口調で

「俺に気づくとは大した者だな。小僧。」

とか何とか言ってきたからイラツときた俺は思わず

「あ、悪い。今、エロ本見てるから後で。じゃっ。」

って言って、シャットアウトしちゃったんだ。

シャツアウトする時に「ちょっ、待て」とか聞こえたけど勿論、無視。

その後も何かずっと話し掛けてきてたけど勿論俺は無視。最後の方になつてくると

「俺の話しを聞いてくれ〜（泣）。いや、聞いてください〜い（泣）。うおお〜ん（泣）。」

って泣いて懇願してきた。

あまりに哀れなドライグを見て俺は

「……………二天龍…ちょー笑えるんですけど（笑）。もうちょっと放置しよ」

勿論、無視しました。

その結果……………泣き疲れたのか叫び疲れたのか何も言わなくなりました。

流石に可哀想になった俺は就寝前に精神統一の要領でドライグの所に行つてみようとしたら……………行けたよ。

やってみてビックリだったね、あれは。

まあ神様からチートっぽい肉体とか貰ってるから出来たのかな。

とりもまあドライグの近くに降り立つと……………グーグー寝てた。

再びイラッとききました。

人間イラッときたらやることは勿論

「寝てるんじゃないやねえよ！！この泣き虫トカゲエ！」

ドコッ

ぶっ叩くよね、普通。

いや……流石にちょい叩いた手が痛かったけどさ。

ただドライグの方も結構効いたみたいで慌てて起きた。

ドライグを起こした俺はその後、色々と話した……のはいいんだけど殆どはドライグの質問だったけどな。

「どうやって此処まで来た？」とか「さっきの衝撃はおまえか？」とか「精神世界とはいえ俺を殴ってちよつと痛いとか…人間かおまえ？」などなどだ。

まあそこらは割愛しよう。

とにかくドライグと意志疎通ができたから神器が発動セイフリット下・ギアできるかな？
と思い、試してみた。

……んだけど、何故か発動しなかったんだよね。

ドライグも驚きながら「こんな事は初めてだ。俺もわからん。」と言ってきた。

俺はまあどうでもいいかと思ひ、原作時期になったら発動できんだろと割り切った。

というか、発動できなくても生き残る術はあるしな。

そんなこんなでドライグとは魔法とかでよくある念話みたいな感じでよく会話をしている。

ただ……俺があまりにエロい事に若干呆れていたが。

仕方ないじゃん。

あんな変態を魂時に見たら女体が恋しくなるのは当然じゃん!?

だから俺は悪くない。

悪いとしたらあの変態仮面が悪い。

で、ドライグと意志疎通しながら身体をちよくちよく鍛えたりしてたんだよ。

今の俺、結構凄いと思う。

12歳の段階で……軽く石を握ると砕けます。

地面殴ると……陥没します……アスファルトが。

罅が入るとかじゃなく陥没ね。

反復横飛びをちょい真面目にすると……残像拳もどきが出来た……

これにはちよつと感動した。

……とにかく……うん、あの変態仮面やり過ぎだ。

まあ……いっか。

幸いな事に筋肉ムキムキじゃないから。

とにかく今の俺はこんな感じ。

で、話を戻して

ドライグと会話しながら俺は今学校帰り。

担任の美奈子先生（美人しかもナイスボディ、ここ重要）のプリプリのお尻とバインバインのオツパイを脳内再生しながら歩いていたら

「ニャ〜オ」

「お、猫だ。しかも真つ黒。……可愛いなあ〜。」

猫発見。

あまりの可愛さに俺は夢中です。

何やらドライグが言ってきたるが猫の愛らしさの前にした俺には釈迦に説法。

猫に向かってしゃがみ込み

「チツチツ、おいで〜。」

猫呼ぶ。

すると人慣れしてるのか

「ニャア〜」

ネコキター！

ちなみに俺は猫大好きです。

俺の手に擦りよる黒い猫。

かゝいゝな

擦りよる猫の顎を搔いたり頭撫でたりしてた時に気づいた。

「あれ？こいつ怪我してら。…………結構痛そうだぞ、これ。」

後ろの右足辺りに傷があった。

猫好きな俺は

「よっしゃ。おまえ、ちょっと俺んち来い。手当てしやるから。」

と猫に話し掛けて抱き上げた。

暴れるかな〜と思ったけど、意外にすんなり抱かれた。

ほんとに人慣れしてんな、こいつ。

「ま、いいか。レッツゴー うは、ふかふかだ、こいつ。猫サイコ
オー。」

猫の抱き心地の良さに俺の気分は有頂天。

俺はそのままルンルン気分で帰宅した。

……………この後……………エライ事やってもうたと後悔する事も知らずに。

さあ、ぬこを愛でようではないか（後書き）

もし原作を知らない方がいるのなら

二天龍……ドラゴン族でもトップクラスの力の龍。

赤い龍……ドライグ。

白い龍……アルビオン。

この2匹の龍の力は神や魔王（この世界の）をも凌ぐといわれている。

はるか昔にこの2匹が大喧嘩して色々あって神器に魂を封じ込められた。

………だったかな。

セイクリッド・ギア

神器……神が造り出したもの。人間の身にしか宿らない規格外の力。

ロンギヌス

中には神滅具という強大な力を持つ神器もある。

ブーステッド・ギア

主人公が持っている赤龍帝の籠手もそれに当てはまる。

詳細はまた物語中に出てきます。

恐らく。

今の所はこんなところか。

というか、こんな説明いるのかどうかよくわかんない。

まあまた次回に。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0115y/>

ハイスクールD×D～恥痴龍帝 見参～

2011年12月28日02時51分発行